私家版 【 ヨハネの福音書 】

1

初めに、永遠的存在として「ことば」（ロゴス）が存在しました。この「ことば」は**神**（父・子・聖霊、三位一体）とともに存在しました。「ことば」は**神**そのものでした。

このお方は、初めに、**神**とともにおられました。

天地万物・すべてのものは、このお方によって造られました。造られたもので、このお方によらずに出来たものは一つもありません。

このお方にいのち（永遠のいのち）がありました。このいのちは、すべての人の光でした。光は、闇の中に輝いています。闇は、この光に打ち勝つことは出来ませんでした。

神から遣わされた ヨハネという人が現れました。

この人は、証言するために遣わされて来ました。光について証言するためであり、すべての人が 彼によって、光を信じるためです。

ヨハネは、光ではありませんでした。ただ、光について証言するために来たのです。

“ すべての人を照らす まことの光 ” が、世に来ようとしていました。

このお方は、もともと世におられ、世は このお方によって造られたのに、世は、このお方を知ろうとはしませんでした。

このお方は、ご自分の国に来られたのに、ご自分の民は 受け入れませんでした。

しかし、このお方を受け入れた人々、すなわち、その御名を信じた人々には、**神**の子どもとされる特権をお与えになりました。

この人々は、血筋によってではなく、肉の欲求や 人の意欲によってでもなく、ただ、**神**によって生まれたのです。

「ことば」は、肉体をもった人となられて、私たちの間に住まわれました。

私たちは、このお方の栄光を見ました。父なる神のみもとから来られた ひとり子の神として
の栄光です。このお方は、恵みとまこと とに 満ちておられました。

ヨハネは、このお方について証言し、叫んで言いました。

「『私のあとから来られるお方は、私のような者ではなく、高い御位に着いておられたお方です。
私より先に存在されていたからです。』と私が言ったのは、このお方のことです。」

私たちはみな、このお方の、満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上に 更に 恵みを受けたので
す。というのは、律法はモーセによって与えられ、その律法の奥義である 恵みとまこととは、
イエス・キリストによって 実現したからです。

いまだかつて、神を見た者はいません。父なる神のふところにおられる ひとり子の神が、神
を説き明かされたのです。

ヨハネの証言は、こうです。

ユダヤ人たちが、祭司とレビ人をエルサレムから、ヨハネのもとに遣わして 尋ねさせました。
「あなたは、どなたですか。」

ヨハネは、あいまいにせず、はっきりと答えました。

「私は、メシヤ（キリスト）ではありません。」

「では、いったい何人ですか。あなたは、聖書に預言されているエリヤ人ですか。」

「そうではありません。」

「それでは、『申命記』18章に出てくる、あの預言者人ですか。」

「違います。」

「あなたは、誰人ですか。私たちが遣わした人達に、返事をしなければなりません。

一体、あなたは自分を、何者だと言われるのですか。」

「私は、預言者イザヤが言ったように、『主の道を まっすぐにせよ』と、荒野で叫んでいる者の
声です。」

これらのユダヤ人たちは、パリサイ人の中から遣わされたユダヤ人たちでした。

「メシヤ（キリスト）でもなく、また あの預言者でもないなら、なぜ、あなたは バプテスマを
授けているのですか。」

「私は、水でバプテスマを授けていますが、あなた方の中に、あなた方の知らないお方が立って

おられます。そのお方は、私のあとから来られるお方で、私には、そのお方の、靴のひもを解くことさえ ふさわしくありません。」

これらの事があったのは、ヨルダン川の向こう岸にある、ベタニヤでのことで、ヨハネはそこで、バプテスマを授けていたのです。

その翌日、ヨハネは、自分の方にイエスが来られるのを見て、言いました。

「見なさい。世の罪を取り除く**神**の小羊！

私が、『私のあとから来る人がいます。そのお方は、私のような者ではなく、高い御位に着いておられたお方です。私より先におられたからです。』と言ったのは、このお方のことです。

私もこのお方のことを、メシヤとしては知りませんでした。しかし、このお方が イスラエルの国において、メシヤとして明らかにされるために、私はやって来て、水でバプテスマを授けているのです。」

「聖霊なる**神**が、鳩のように天から下って、このお方の上にとどまられるのを、私は見ました。

私も、このお方を、メシヤとしては知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされたお方が、私に言われました。

『聖霊なる**神**が、ある方の上にとどまられるのが あなたに見えたなら、そのお方こそ、聖霊によってバプテスマを授けるお方です。』

私は、そのことを見たのです。それで、このお方が **神**の御子であると、証言しているのです。」

その翌日、また ヨハネは、アンデレと もう一人の 二人の弟子と共に立っていましたが、イエスが歩いて行かれるのを見て、言いました。

「見なさい。**神**の小羊！」

二人の弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行きました。イエスは振り向いて、二人がついて来るのを見て、言われました。

「あなた方は、何を求めているのですか。」

「ラビ（先生）。今、どこにお泊まりですか。」

「来なさい。そうすれば わかります。」

そこで、二人はついて行って、イエスの泊まっておられる所を知りました。そして、その日、彼らは ずっと、イエスと一緒にいました。時は、午後4時ごろでした。

ヨハネから聞いて、イエスについて行った 二人の内の一人は、シモンの弟の アンデレでした。

アンデレは まず、自分の兄シモンを見つけて、言いました。

「私たちは、メシヤ（ギリシャ語で言えば、キリスト）にお会いしました。」

アンデレは、シモンを イエスのもとに 連れて来ました。イエスは、シモンに目を留めて言われました。

「あなたは、ヨハネの子・シモンです。これから あなたのことを ケパ（岩、ギリシャ語で言うと、ペテロ）と呼ぶことにします。」

その翌日、イエスは ガリラヤに行こうとされました。そして、ピリポを見つけて、言われました。「わたしに 従って来なさい。」

ピリポは、ベツサイダ の人で、アンデレやペテロと 同じ町の出身でした。

ピリポは、ナタナエルを見つけて言いました。

「私たちは、モーセが律法の書の中に書き、預言者たちも それぞれの書に書き記している方にお会いしました。ナザレの人で、ヨセフの子・イエスというお方です。」

「ナザレからなど、何の良いものが出るものか！」

「来て、そして、見なさい。」

イエスは、ナタナエルが 自分の方にやって来るのを見て、彼について言われました。

「この人こそ、本当のイスラエル人です。この人の内側には、偽りがありません。」

「どうして、私のことを ご存じなのですか。」

「わたしは、ピリポが あなたを呼ぶ前から、あなたが いちじくの木の下にいて 祈っているのを見ていたのです。」

「ラビ。あなたは、**神**の子です！ あなたは、イスラエルの王です！」

「あなたが いちじくの木の下にいるのを見ていた、と わたしが言ったので、あなたは、わたしのことを信じるというのですか。あなたは、それよりも もっと大いなることを見ることがになります。」

「アーメン（真実に）、アーメン。あなた方に告げます。天が開かれて、**神**の御使いたちが、人

となったわたしの所に ^{のほ} ^{くだ} 上り下りするのを、あなた方は 今に 見ることとなります。」

2

そのことがあって 3 日目に、ガリラヤの カナで婚礼があって、その婚礼の席に、イエスの母 マリヤも 台所で お手伝いをしていました。

イエスも、弟子たちも、その婚礼に招かれていました。

婚礼の宴会の途中で、ぶどう酒が無くなってしまった時、母マリヤが イエスに向かって言いました。

「ぶどう酒が 無くなってしまいました。なんとか してあげてください。」

「お母さん。お母さんとしてではなく、主なる**神**さまを信じている女の人（ギユナイ）として言いましょう。

“ わたしがいつ、**神**としての栄光を現わすのか ” ということと、あなたと、何の関係がある ということでしょう。『わたしの時』は、まだ来てはいません。」

マリヤは、出過ぎていたことを示され、悔い改めて、手伝いの男の人たちに言いました。

「あのお方が言われることを、何でも そのようになさってください。」

さて、その場所には、ユダヤ人の “きよめのしきたり” に従って、手をきよめたりするための、80 リットルから 120 リットル入りの 石の水がめが 6 つ置いてありました。

イエスは、男たちに言われました。

「水がめの水を、つぎたして、いっぱい満たしなさい。」

彼らは、水がめを縁まで いっぱいにしました。

「さあ、今 汲みなさい。そして、宴会の世話役の所に持って行きなさい。」

彼らは、汲んだ物を持って行きました。

宴会の世話役は、ぶどう酒になった その水を味わってみました。彼は、そのぶどう酒が どこに貯えてあったものなのか、わからなかったので、花婿を呼んで、言いました。

（水を汲んだ 手伝いの者たちは、すべてのことを知っていたわけですが）

「誰でも、宴会の初めに 良いぶどう酒を出し、みんなが酔ってきた頃になって、まあまあの物を出すのが 普通のやり方だけれど、あなたは、よくまあ、こんなに良いぶどう酒を、今まで取って置きましたね。」

イエスは、このことを、“**神**であることの 証拠としての最初の奇蹟 ” として、ガリラヤのカナの町で行ない、ご自分の **神**としての栄光を現されました。

これらのことを つぶさに見ていた弟子たちは、イエスを **神**の御子として 信じました。

その後、イエスは、母マリヤ（父ヨセフは、若くして 亡くなくなっていました。）や、^{きょうだい}弟妹たちや 弟子たちと一緒に、カペナウムに下って行き、長い日数ではありませんでしたが、そこに滞在されました。

ユダヤ人の「^{すごし}過越の祭り」が近づいてきましたので、イエスは、エルサレムに上られました。**神**の宮の中庭では、犠牲としてささげる 牛や羊や鳩を売る者たちと、**神**の宮でささげるユダヤ貨幣に両替する 両替人たちが座って 商売をしていました。

イエスは 彼らを見られて、細なわで鞭を作って、羊も牛も皆、**神**の宮から追い出されました。両替人の^{かね}金をまき散らし、その台を倒されました。また、鳩を売る者たちに言われました。

「それを、ここから持って 出て行け！ わたしの父の家を、商売の家にしてはならない！」

弟子たちは、「詩篇」69 篇 9 節に書かれている言葉を 思い起こしました。

「あなたの家を思う熱心が、私を食い尽くす。」

神の宮から追い出されたユダヤ人たちは、イエスに言いました。

「あなたが、このようなことをするからには、これらのことが **神**からのものであるという、どんな 証拠としての奇蹟を、私たちに見せてくれるというのですか！」

「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日で 新しい神殿を建てます。」

「この神殿は、建てるのに 46 年も かかりました。あなたは、それを三日で建てるというのですか！」

イエスは、ご自分の「からだの神殿」のことを言われたのです。

ユダヤ人たちには勿論のこと、弟子たちにも何のことなのか、わかりませんでしたが、イエスが死人の中から復活された時、弟子たちは、イエスが この時 言われた言葉を思い出して、聖書のことばと イエスが言われたことばとを信じることが出来ました。

イエスが、過越の祭りの祝いの期間、エルサレムにおられた時、多くの人々が、イエスが行わ

れた しるしとしての奇蹟を見て、**神**の御名を信じました。

しかし、イエスは、人々が**神**の御名を信じたからといって、ご自身を 人々にはお任せにはなりませんでした。なぜなら、イエスは、すべての人のことを知っておられ、また、人の心の中にあるものをも知っておられたので、**神**の御名を信じたといっている人たちの 不確実な心の状態も、よくわかっておられたからです。

3

さて、パリサイ人の中に、ニコデモという人がいました。ユダヤ人の指導者でした。

この人が、夜こっそりと、イエスの所にやって来て 言いました。

「ラビ。私たちは、あなたが**神**のもとから来られた教師であることを知っています。**神**が共におられるのでなければ、あなたがなさる あのような奇蹟のわざは、誰も行うことは出来ません。」

イエスは、答えて言われました。

「アーメン（真実に）、アーメン。あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、**神**の国を見ることは出来ません。」

「人は、年寄りになっていて、どのようにして 生まれることなど出来るでしょうか。もう一度、母親のお腹の中に入って生まれることなど 出来るはずがありません。」

「アーメン、アーメン。あなたに告げます。人は、水と聖霊によって生まれなければ、**神**の国に入ることは出来ません。

肉によって生まれた者は、肉です。聖霊によって生まれた者は、霊です。

“ あなた方は、新しく生まれなければならない ” とわたしが言ったことを、不思議に思っはなりません。

風は 思いのままに吹き、あなたはその音を聞きますが、それが どこから来て、どこへ行くのかを 知りません。聖霊によって生まれる者も皆、それと同じです。」

「どうして、そのようなことがありうるでしょうか！」

「あなたは、イスラエルの教師でありながら、こういうことさえ わからないのですか！」

アーメン、アーメン。あなたに告げます。わたし達は、知っていることを話し、見たことを証言しているのに、あなた方は、わたし達の証言のことばを受け入れません。

あなた方は、わたしが この地上の世界のことを話している時にさえ、信じない位ですから、

天上の世界のことを話しても、どうして信じる事が出来るでしょうか。

誰も、天に上^{のぼ}った者はいません。しかし、天から下^{くだ}って来た者はいます。人間として この世界に生まれてきた、このわたしです。

「民数記」の 21 章に記されている、モーセが荒野で、青銅で作った蛇を、旗竿の上にあげたように、このわたしも又、 “ 仰ぎ見るもの ” として、木の上に あげられなければなりません。

それは、信じる者が皆、**神**が人となった このわたしにあって、永遠のいのちを持つためです。」

神は、実に、その ひとり子の**神**を お与えになったほどに、この世界の すべての人たちを愛されました。それは、御子^{みこ}である**神**を信じる者が、誰ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つようになるためです。

神が 御子^{みこ}である**神**を 世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子の**神**によって、世界のすべての人たちが救われるためです。

御子の**神**を信じる者は、さばかれません。信じない者は、ひとり子の**神**の御名^{みな}を信じないわけですから、今すでに さばきの中にあるのです。

どういふ さばきなのかと言うと、こういうことです。

光であるお方が、この世に来られているのに、人々は、光よりも闇を愛しました。人々の日々の行いが悪いものだったからです。悪いことを行う者は 光を憎みます。その悪い行いが明るみに出されることを恐れて、光の方には来ません。

しかし、真理を行う者は、光の方に来ます。その行いが、**神**にあって なされていることが、明らかにされるためです。

しばらくして後、イエスは弟子たちと、ガリラヤを旅立って ユダヤの地に行き、そこに滞在されて、弟子たちによって バプテスマを授けておられました。

ヨハネも又、サリムに近いアイノンで バプテスマを授けていました。アイノンには、水が多かったからです。人々は次々にやって来て、ヨハネからバプテスマを受けました。

(ヨハネがまだ、投獄されていなかった時でした。)

一人のユダヤ人と ヨハネの弟子たちとの間で、 “バプテスマによるきよめ” について、論議されたりすることも ありました。

ヨハネの弟子たちが、ヨハネの所に来て言いました。

「ラビ（先生）。ご覧になってください。あなたが証言なさったあの方が、バプテスマを授けておられます。そして、みんな、あの方の方^{ほう}へ行ってしまいます。」

「あなた方こそ、『私は メシヤ（キリスト）ではなく、そのお方が来られる前に 遣わされた者です』と、私が言ったことの証人ではありませんか。人は、天におられる神から与えられるのであれば、何も受けることは出来ません。

花嫁を迎える主役は、花婿です。そこにいて、花婿の語る言葉に耳を傾けている友人は、花婿の語る声を聞いて、大きな喜びを感じます。私も、その友人のように、喜びで満たされています。

あのお方は盛んになって 栄えていき、私は働きを終えて 退いていくのです。」

この世から出る者は、この世に属し、この世の言葉を話します。

上の方^{ほう}、天から来られる方は、すべてのももの上^{かた}におられます。

このお方は、天で 見たこと・聞いたことを証言として話されるのですが、誰もその証言のことばを受け入れません。

このお方の証言のことばを受け入れた者は、“ 神は真実である ” ということに、確認の印を押したのです。

神がお遣わしになったお方は、神のことばを話されます。神が、そのお方に、聖霊を 量りながらではなく、無限に与えられるからです。

父なる神は、御子の神^{みこ}を愛しておられ、万物を 御子の神の手にお委ねになりました。

御子の神を信じる者は、永遠のいのちを持っていますが、御子の神に聞き従わない者には、いのちが与えられることはなく、神の 怒りのさばきが、その者の上にとどまっているのです。

4

イエスが ヨハネよりも、弟子を多く作って、バプテスマを授けているということが、パリサイ人^{びと}たちの耳に入りました。そのことを、主が知られた時 —— イエスご自身が バプテスマを授けておられたのではなく、授けていたのは弟子たちでしたが —— 主は ユダヤを去って、ま

たガリラヤに戻られました。

ガリラヤへ行く途中、サマリヤを通って行くことになります。

主は、ヤコブが わが子ヨセフに与えた地所に近い、スカルという サマリヤの町に来られました。そこには、「ヤコブの井戸」がありました。

イエスは 旅の疲れをいやすために、井戸のそばに腰をおろしておられました。時は、正午ごろでした。弟子たちは、昼食を買いに 町まで出かけていました。

ひとりのサマリヤの女の人が、水を汲みに来ました。イエスは、その人に 頼まれました。

「わたしに、水を飲ませてください。」

「あなたは、私たちサマリヤ人を見下して 差別しているユダヤ人なのに、どうして サマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」

「もしあなたが、聖書に預言されている **神**の賜物のことを知っていて、また、あなたに水を飲ませてください と言っている者が誰であるのかが わかっていたら、あなたの方から わたしに求めることでしょう。そして、わたしは、あなたに 湧き出る いのちの水を与えることでしょう。」

「ラビ（先生）。あなたは、汲む物を持っておいでになりませんし、この井戸は深いのです。その いのちの水を、どこから手にお入れになるのですか。」

あなたは、私たちの父祖ヤコブよりも お偉い方なのでしょうか。

ヤコブは、私たちに この井戸を与えてくださり、ヤコブ自身も・ヤコブの子ども達も・家畜もみんな、この井戸から飲んだのです。」

「この水を飲む者は誰でも、また渴きます。

しかし、わたしが与える水を飲む者は誰でも、決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の心の中で 泉となり、永遠のいのちの水が湧き出るようになります。」

「**主**よ。私が渴くことがなく、もうこの井戸まで水を汲みに来なくてもよいように、その水を私にください。」

「帰って行って、あなたの夫を ここに呼んで来なさい。」

「私には、夫はいません。」

「 “ 私には夫はいない ” というのは、もっともな答えです。

あなたには、これまで次々と 夫が5人いましたが、今あなたと一緒に暮らしているのは、あなたが言う通り、夫ではないからです。」

「主よ。私は、あなたが預言者だと思います。

私たちの父祖たちは、このゲリジム山^{さん}で礼拝しましたが、あなた方・ユダヤの方々は、礼拝すべき場所は、エルサレム だと言っておられます。」

「ギユナイ（女の方）。わたしの言うことを信じなさい。

あなた方が、父なる神を礼拝する場所は、ゲリジム山でもなく、エルサレムでもない。そういう時が来ます。

救い主^{ぬし}は、選民であるユダヤ人から出ることになっていますから、わたし達は、わかって礼拝していますが、あなた方は、わからないままに礼拝をしているのです。

しかし、ユダヤ人とか サマリヤ人とかということではなく、真^{まこと}の礼拝者たちが、霊とまことをもって、父なる神を礼拝する時が来ます。いえ、今がその時です。父なる神は、そのような人々を、礼拝者として求めておられるのです。

神は霊ですから、**神**を礼拝する者は、霊とまことをもって 礼拝しなければなりません。」

「私は、キリストとも呼ばれる メシヤが、いつか来てくださることを知っています。そのお方が来てくださった時には、いっさいのことを、私たちに知らせてくださることでしょう。」

「あなたと話している このわたしが、その キリスト・メシヤ です！」

この時、弟子たちが買い物から帰って来て、イエスが女の人と話しておられるのを見て、不思議に思いました。

しかし、「何を求めておられるのですか。」とか、「なぜ、女の人と話しておられるのですか。」とか、イエスに たずねる者は 誰もいませんでした。

この女の方は、自分の水がめを その場に置いて、急いで町なかへ帰って行き、人々に言いました。

「来て、見てください。私のしていること全部を、私に言い当てた人がいるのです。この方が、私たちがお待ちしている キリストなのではないでしょうか。」

そのことを聞いて、人々は町なかから出て行って、イエスのおられる方へやって来ました。

その頃、「ヤコブの井戸」の所では、弟子たちがイエスに、昼食を お勧めしていました。

「ラビ。お召し上がりください。」

「わたしには、あなた方の知らない食べ物があります。」

——「誰か、食べる物を持って来たのだろうか？」

「わたしを遣わした方の みこころを行い、そのお方の みわざを成し遂げることが、わたしの食べ物です。」

あなた方は、『刈り入れ時が来るまでに、まだ4か月ある！』と言っては いませんか。

さあ、わたしの言うことを聞きなさい。

目を上げて、畑を見なさい。すでに、色づいて、刈り入れるばかりになっていますよ。

刈る者は 報酬を受け、『永遠のいのちに入れられる実』を 刈り集めています。蒔いた者と刈る者が、一緒に喜び合っています。

こういうわけで、『ひとりが種を蒔き、ほかの者が刈り取る』ということわざは、本当のことなのです。

わたしは、あなた方が自分で労苦しなかったものを刈り取らせるために、あなた方を遣わしました。ほかの人々が労苦して、あなた方は その労苦の実を得ているのです。」

さて、イエスの所にやって来た スカルの町のサマリヤ人達のうち、多くの者が、「あの方は、私がしていること全部を、私に言い当てた」と証言した あの女性の言葉によって、イエスを信じました。

信じたサマリヤ人達は、イエスの所にやって来て、“自分たちの所に来て、滞在してくださいるように”と、お願いしました。そこで、イエスは、二日間 スカルの町に滞在されました。

その結果、更に多くの人々が、イエスの話されることばを聞いて、信じていきました。

スカルの町の人々は、最初に イエスのことを伝えた女の人に言いました。

「もう今では、私たちは、あなたが話したことによって 信じているのではありませんよ。自分で 直接聞いて、このお方が 本当に、メシヤ・世界の救い主だと知っているのです！」

二日の後、イエスは スカルを去って、最初の予定通り、ガリラヤへ向かわれました。

イエスご自身、「預言者という者は、自分の故郷では 尊ばれないものです。」と、語られたことがあります。

そういうわけでしたが、イエスが ガリラヤに行かれた時、ガリラヤ人は イエスを歓迎しました。どうしてかという、彼らも、エルサレムで祝われた「過越の祭り」に行っていたので、イエスが 祭りの間に エルサレムでなされた すべてのことを見ていたからでした。

イエスは、ガリラヤのカナの町に、再び出かけて行かれました。そこは、少し前 婚礼の席で、水をぶどう酒に変えて、“神であることの 証拠としての最初の奇蹟 ” をされた所です。

カナから少し離れた所にある、カペナウムの町に、病気の息子がいる 王室の役人がいました。

この人は、イエスが ユダヤから ガリラヤに来られたということを聞いて、急いで イエスの所まで出かけて行き、「カペナウムまで 下って来ていただいて、息子をいやしてくださいますように。」と、お願いしました。息子が、死にかかっていたのです。

イエスは、その王室の役人に言われました。

「あなた方は、奇蹟と不思議なわざを見ない限り、決して信じることをしません。」

「主よ。どうか、私の子どもが死なないうちに 下って来てください！」

「帰って行きなさい。あなたの息子は 治っています。」

その人は、イエスが言われたことばを信じて、帰途に着きました。。

カペナウムに下って行く途中、報告のため駆けつけて来た召使い達に出会って、“息子が治った ” ことを告げられました。

子どもが よくなった時刻を尋ねると、

「きのう、午後1時に熱が引きました。」ということでした。

それは、イエスが「あなたの息子は 治っています。」と言われた時刻と同じ時刻でした。

そして、この王室の役人自身と 家の者が皆、イエスをメシヤ (キリスト) として信じました。

イエスは、ユダヤを去って ガリラヤに入られてから、ここガリラヤで、このことを、“神であることの 証拠としての第二の奇蹟 ” として 行われたのです。